

2023年11月20日

博報堂キャリアジョ研プラス、「ジェンダーバイアスに関する生活者意識調査」を実施

「男らしく/女らしくあるべき」という考え方でイヤな思いをしたことがある人は全体の3割。

「性別にもとづく役割から降りたいが難しい」と感じる人は全体の4割。

一方、性別にもとづく役割を次世代に押し付けたくない意識は、子を持つ人で約7割にのぼる。

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）の社内プロジェクトで「女性の幸せを起点に、すべての人が生きやすい“ニュートラルな社会”づくり」をビジョンに掲げて活動する「博報堂キャリアジョ研プラス」は、これまで女性の意識に関して調査・研究してきましたが、11月19日の「国際男性デー」を機に、女性に限らず男性も含めた、性別にもとづく「らしさ」についての意識を明らかにするため、「ジェンダーバイアスに関する生活者意識調査」を実施しました。近年、ジェンダー平等が求められる中、ジェンダーバイアスや性別にもとづく「らしさ」の押し付けについても注目されるようになってきました。今回調査を通じて、ジェンダーバイアスによる生活者の悩みの実態が浮かび上がってきましたので、主なポイントをご紹介します。

【調査結果サマリー】

①【「男らしく/女らしくあるべき」という考えでイヤな思いをした人の割合】

「男らしく/女らしくあるべき」という考え方によってイヤな思いや体験をしたことがあるのは、男女ともに3割。特に20代・30代は4割弱と高くなっている。

②【「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割についての意識】

「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割については、「降りたいが実際に降りるのは難しい」と感じる人が全体で4割。難しいと感じる理由は「社会や世間の考え方」「身の回り的人・環境の期待や制約」「自分の中に根付いた考え方を捨てきれない」が上位を占める結果に。

③【性別にもとづく「らしさ」に関する、子供に向けての意識】

自分の性別について「男/女ならこうすべき」という内容を見聞きした接点を聞くと、男性は「父親」、女性は「母親」がトップでいずれも3割以上。一方、子を持つ人について「自分の子供に対して、なるべく『男だから』『女だから』などと言わないようにしている」と回答した人は7割弱にのぼり、次の世代に「らしさ」を押し付けない意識が見られる。

調査からは男女ともに性別による「らしさ」によって苦しむ人が見られ、社会や周囲の押し付けによって窮屈な思いをしている人がいることもわかりました。一方で、そのような「らしさ」の押し付けを次の世代に残さないようにしている意識も子を持つ生活者においてみられており、今後の変化の兆しがうかがえる結果となりました。

博報堂キャリアジョ研プラスは10月にプロジェクト名を変更したことに併せて、女性に限らず、男性や周囲の環境などより広い視点でのジェンダーバイアス・ジェンダーギャップ解消を目指して、ナレッジ提供や商品・サービス・事業開発のプランニングなどの協業ワークにも取り組んでまいります。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 三矢 戸田 TEL:03-6441-6161 e-mail: koho.mail@hakuhodo.co.jp

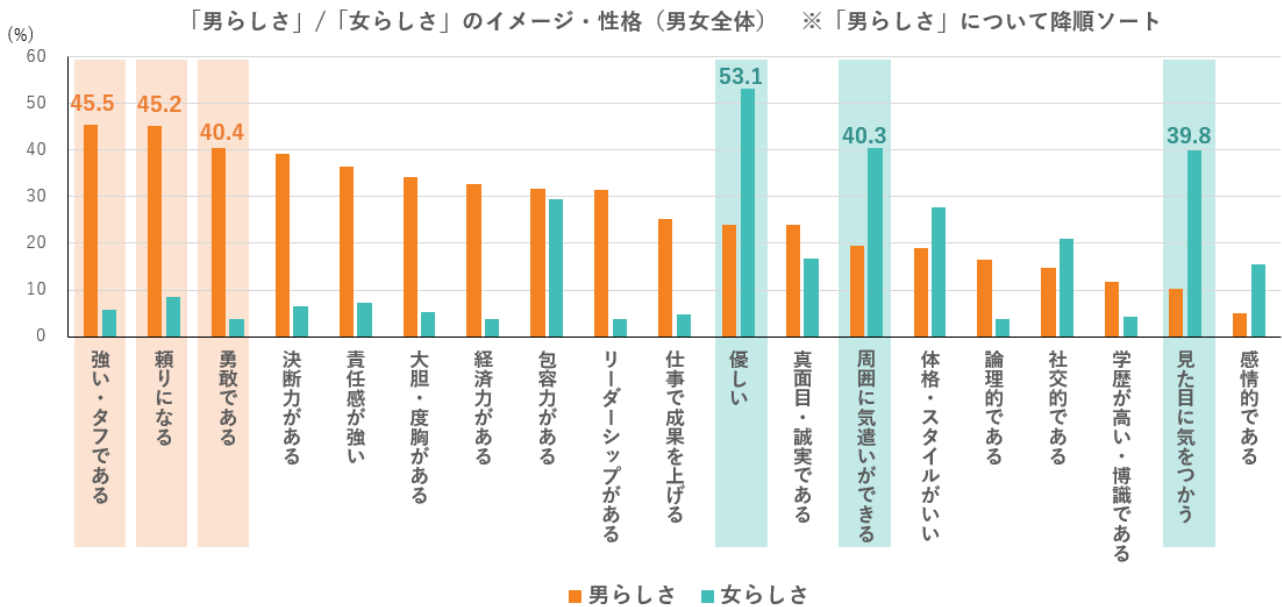
【調査概要】

- 調査名：ジェンダーバイアスに関する生活者意識調査
- 実施期間：2023年9月11日(月)～9月12日(火)
- 調査手法：インターネットリサーチ
- 調査地域：全国
- 調査対象：スクリーニング調査・本調査ともに15歳～69歳男女
 - ※本調査は「男性」「女性」「その他」「答えたくない」という選択肢のうち、前二者を回答した人のみ聴取
- 回答数：スクリーニング調査：10,000名 本調査：1200名（男女5歳刻みでそれぞれ50サンプル、10代は男女とも100サンプル）
 - ※分析の際、性年代5歳刻みの人口構成に合わせてウェイトバック集計を実施。（グラフ中のサンプル数はWB前の数値）
- 調査主体：博報堂キャリアジョ研プラス
- 調査実施機関：株式会社ディーアンドエム

【結果詳細】

① 【「男らしい」 / 「女らしい」イメージ・性格】

男女全体において「男らしさ」と特に結びつくイメージ・性格は「強い・タフである」「頼りになる」「勇敢である」、「女らしさ」と特に結びつくイメージ・性格は「優しい」「周囲に気遣いができる」「見た目に気をつかう」と、両者の傾向に大きな違いが見られた。一方で、自分になりたいイメージ・性格をきいたところ、男女ともに「男らしさ」「女らしさ」と結びつく項目にあてはまらないものも上位にあがった。



全体 = 1200s

本調査：「女らしさ」についておうかがいします。次の中で、「女らしい」と思う性格をすべてお選びください。（MA）
 本調査：「男らしさ」についておうかがいします。次の中で、「男らしい」と思う性格をすべてお選びください。（MA）

男性のなりたいイメージ・性格 上位5つ (n=600)

順位	項目	数値 (%)
1	経済力がある	31.8
2 ※同率	決断力がある	28.8
2 ※同率	優しい	28.8
4	頼りになる	28.7
5 ※同率	体格・スタイルがいい	26.9
5 ※同率	周囲に気遣いができる	26.9

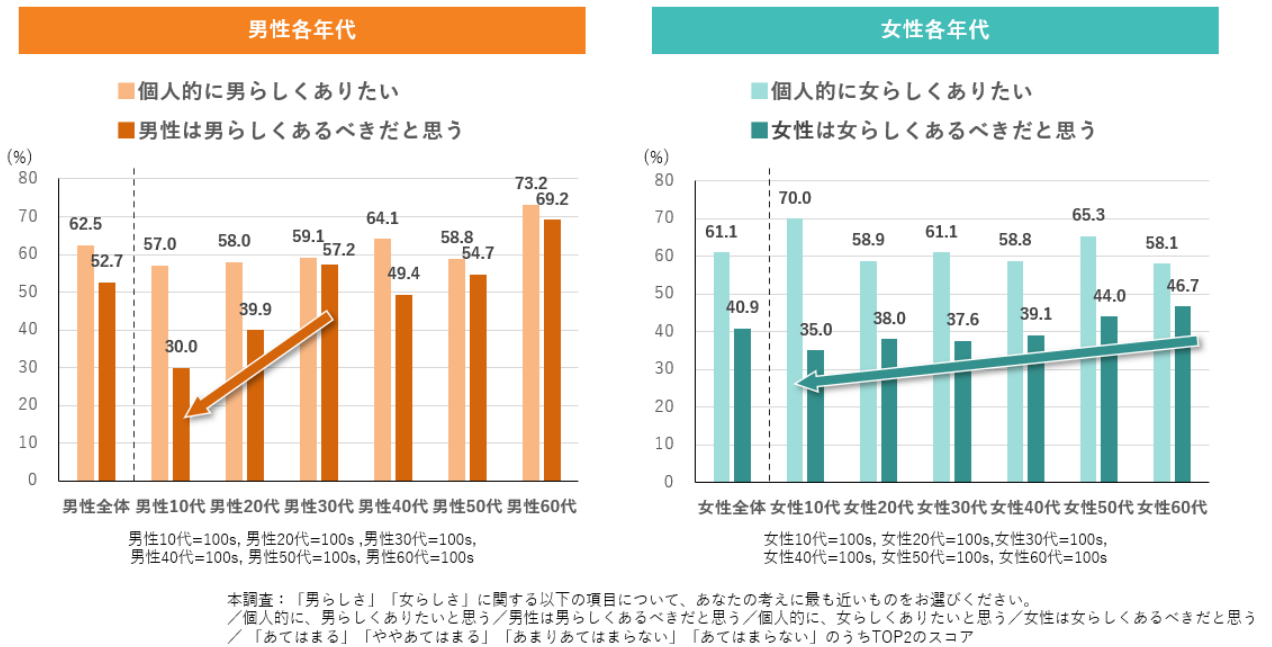
女性のなりたいイメージ・性格 上位5つ (n=600)

順位	項目	数値 (%)
1	体格・スタイルがいい	37.4
2	経済力がある	37.1
3	決断力がある	34.0
4	周囲に気遣いができる	32.9
5	優しい	30.2

本調査：次の中で、あなたが「なりたい」と思う性格にあてはまるものをすべてお選びください。（MA）

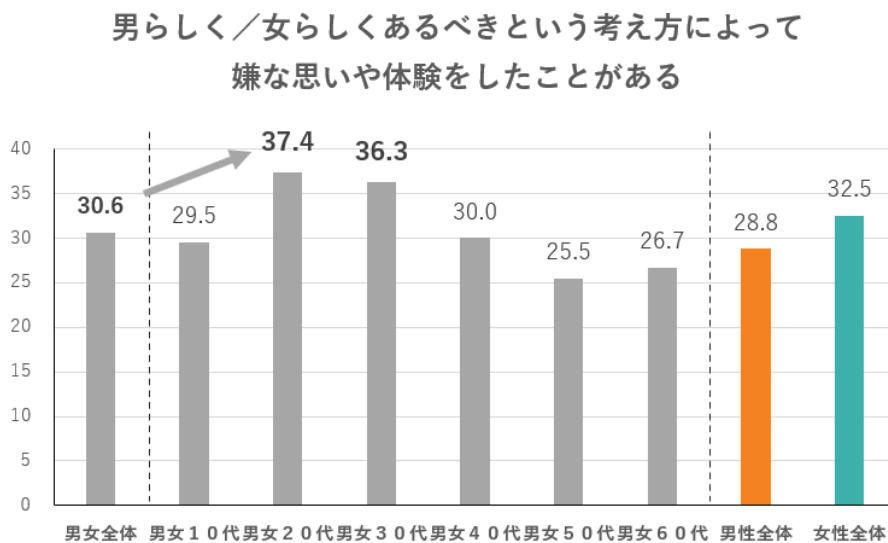
② 【「男らしさ」 / 「女らしさ」に対するスタンス】

「個人的に男らしくありたい/女らしくありたい」（グラフ薄色）と思うのは年代問わず6割前後である一方、「男性は男らしくあるべき/女性は女らしくあるべき」（グラフ濃色）と思うのは若年層が低い。若年層は性別にもとづく「らしさ」について、個人的な意向はあるが周囲に押し付ける意識が低いという傾向が見られる。



③ 【「男らしく/女らしくあるべき」という考えでイヤな思いをした人の割合】

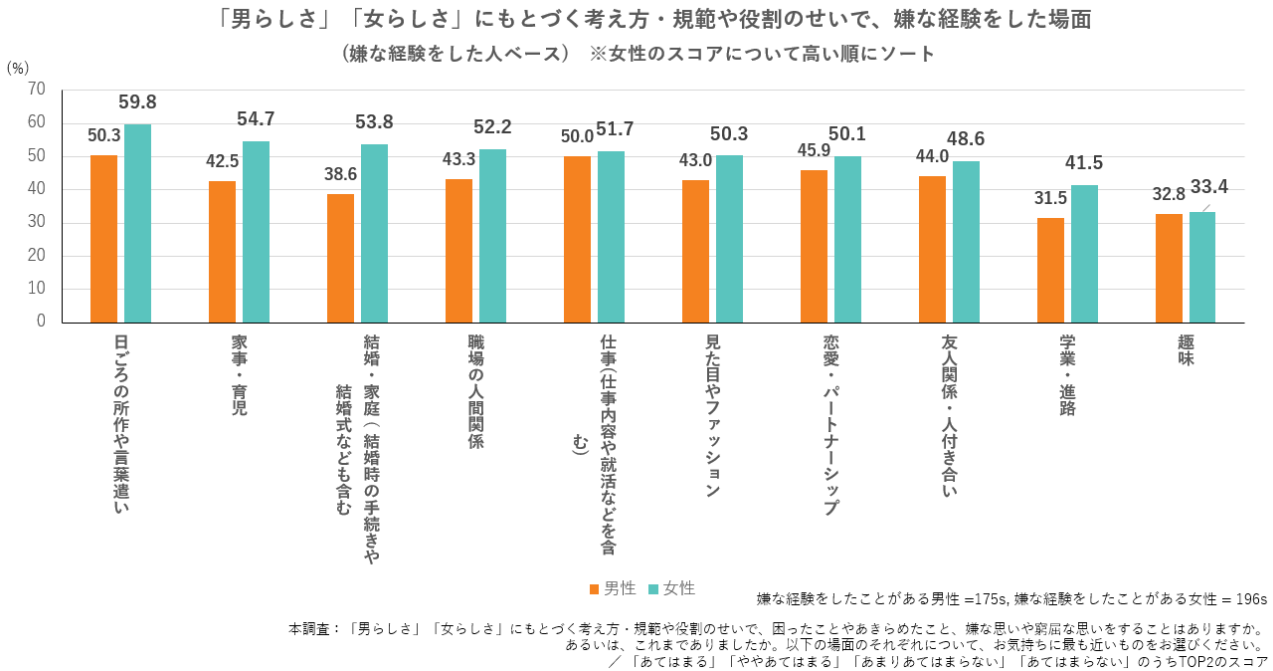
「男らしく/女らしくあるべきという考え方によって嫌な思いや体験をしたことがある」のは、男女ともに3割。特に20代・30代は4割弱と比較的高くなっている。20代・30代において、性別にもとづく「らしさ」の押し付けに対して窮屈さを感じていることがうかがえる。



男女全体 = 1200s, 男性全体 = 600s, 女性全体 = 600s, 各年代の男女合計 = 200s
 本調査：「男らしさ」「女らしさ」に関する以下の項目について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。
 /「男らしく/女らしくあるべきという考え方によって嫌な思いや体験をしたことがある」
 /「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうちTOP2のスコア

④ 【「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割について具体的に困ること】

性別にもとづく「らしさ」によってイヤな経験をした人に、具体的にイヤな経験をした場面についてきたところ、全体的に女性の方が高い結果となった。女性で高いのは「日ごろの所作や言葉遣い」「家事・育児」「結婚・家庭」、男性で高いのは「日ごろの所作や言葉遣い」「仕事」「恋愛・パートナーシップ」となった。またイヤな経験の具体的な内容を自由回答できいたところ、主に男性では強くないなければならない・経済力を期待される、女性では家事や育児をしなければならない・愛嬌の良さや見た目の管理をしなければならない、などの回答が多く見られた。



【具体的に困った内容 (自由回答)】

男性

- 体力的なことを期待されること (男性 40代 会社員)
- 好きな色を好きと言えない (男性 20代 学生)
- 強がっていなければならなかった (男性 50代 会社員)
- 男は泣いてはいけない、弱音を吐いてはいけないと言われたこと。(男性 20代 無職)
- 経済力を求められること (男性 30代 会社員)

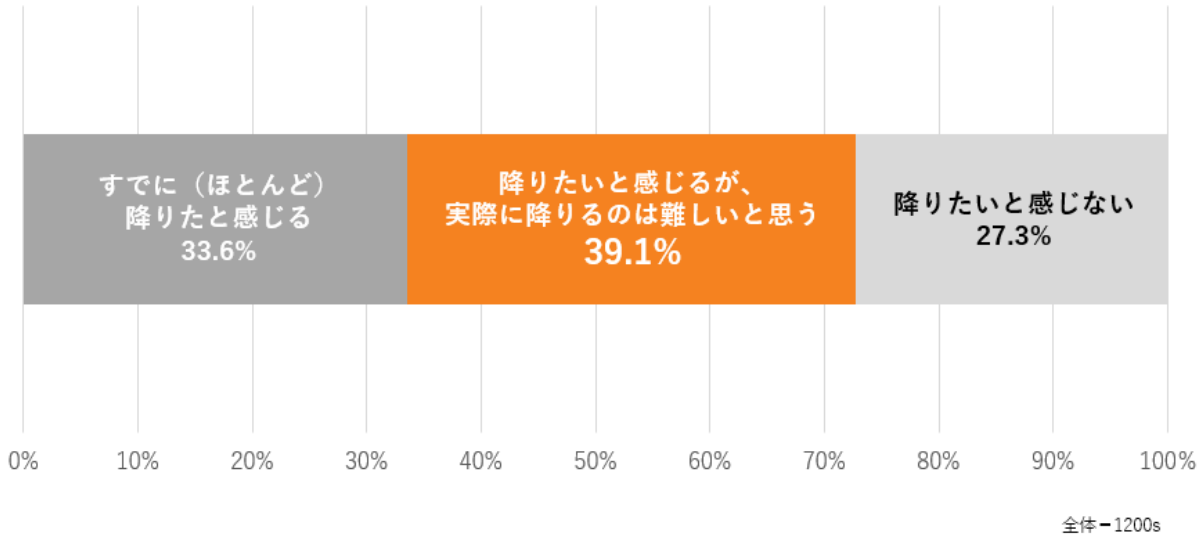
女性

- 女性は愛想良くあるべし、気遣いが出来るべしという世間の風潮があると思うが、そういうのが苦手なのでガッカリされやすい (女性 40代 会社員)
- 「らしさ」というか求められてる女性の期待像として介護で仕事を辞めさせられた (女性 40代 会社員)
- ムダ毛に関して嫌だと思った。男性は毛が生えていても気にならないが、女性はそうはいかない。不平等だと思う。(女性 20代 会社員)
- 家庭のことは女性がすべきという風調で、やりたいことをがまんしなければならないことが多い (女性 60代 パート・アルバイト)
- 男女共学の小学校に通学していた頃、勉強もスポーツも成績優秀だったが、地元の人たちからは女のくせに勉強して何になる、などと言われていた。(女性 30代 専門職)

⑤ 【「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割についての意識】

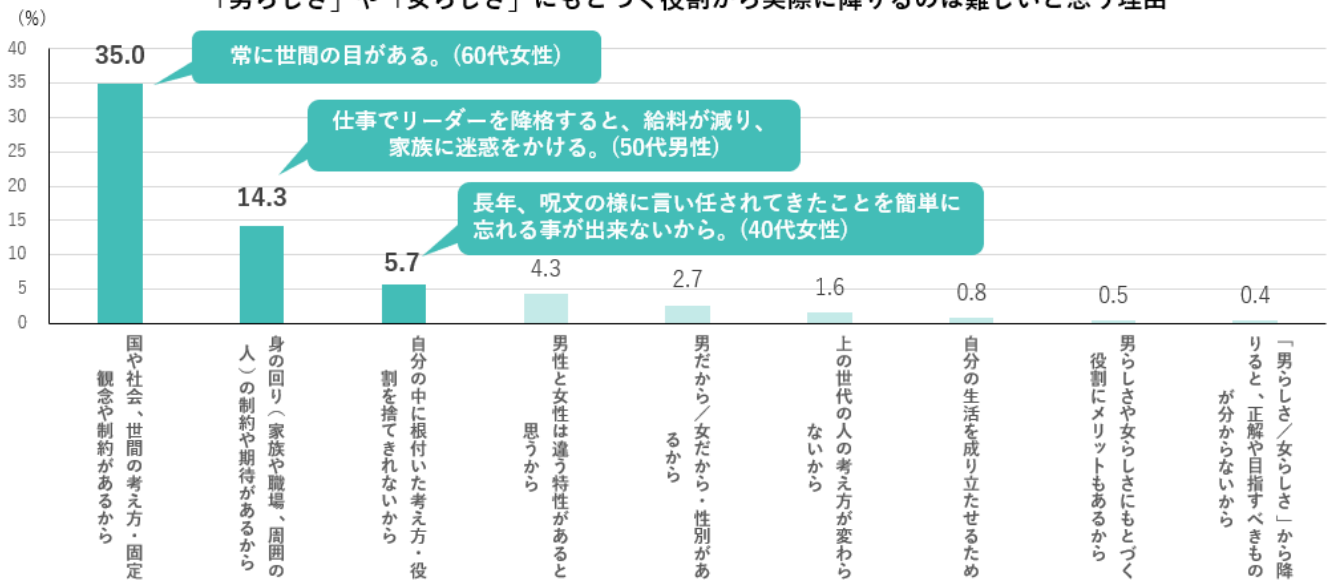
「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割についての意識を見ると、役割から「降りたいが実際に降りるのは難しい」と感じる人が39.1%と、葛藤を抱えている人が約4割を占めることがわかった。さらに、「難しい」と感じる理由についてもきいたところ、「社会や世間の考え方」(35.0%)、「身の回りの人・環境の期待や制約」(14.3%)、「自分の中に根付いた考え方を捨てきれない」(5.7%)などが主として見られた。

「『男らしさ』や『女らしさ』にもとづく役割」についての意識



本調査：「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく規範や役割について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。（SA）
 ※本稿は小数第1位まで(小数第2位を四捨五入)を表示しているため、合計値は見た目の数値と異なる場合があります。

「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割から実際に降りるのは難しいと思う理由



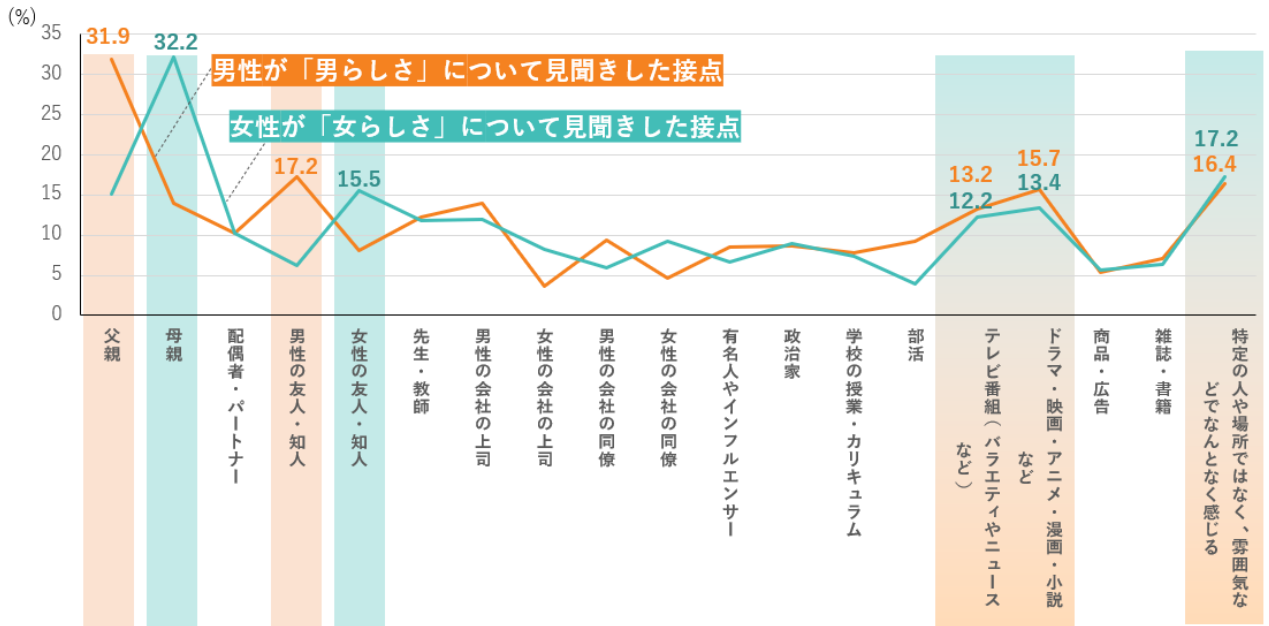
降りたいと感じるが、実際に降りるのは難しいと思う人 = 482s

本調査：「男らしさ」や「女らしさ」にもとづく役割から実際に降りるのは難しいと思う理由 (MA)
 ※フリーアンサーの回答をコーディングして集計。

⑥ 【自分の性別に関わる「らしさ」を見聞きした接点】

自分の性別について「男/女ならこうすべき」という内容を見聞きした接点を聞くと、男性は「父親」、女性は「母親」がトップでいずれも3割以上と高い。次いで、「雰囲気などでなんとなく」「同性の友人」「テレビ番組、コンテンツ作品」が高く、様々な経路で見聞きしていることがうかがえる。

自分の性別に関わる「らしさ」について見聞きした接点



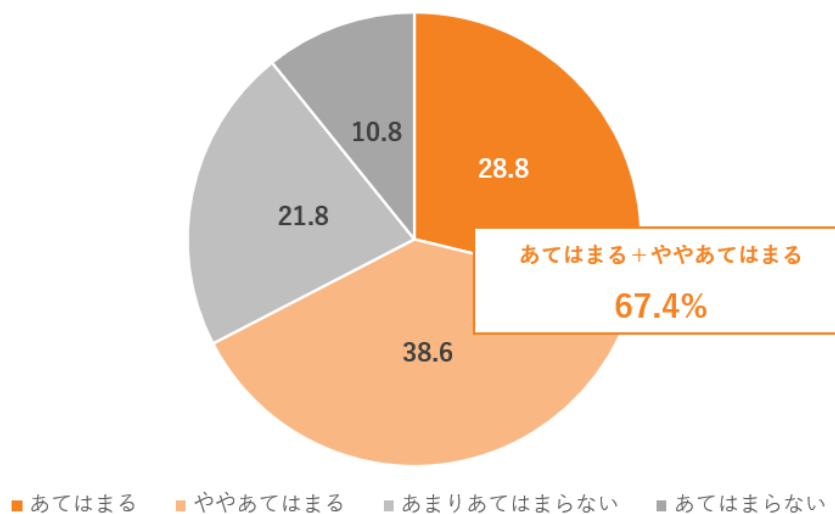
男性全体=600s, 女性全体=600s

本調査：「男/女はこういうものだ、望ましい男性像/女性像はこういうものだ、男/女ならこうすべきだ、このような男/女は男/女らしくない」などの「男らしさ」や「女らしさ」に関する内容について、あなたはどこで/誰から感じたり見聞きしたことがありますか。(MA)

⑦ 【性別にもとづく「らしさ」に関する、子供に向けての意識】

子供を持つ人について「自分の子供に対して、なるべく『男だから』『女だから』などと言わないようにしている」と回答した人は7割弱にのぼり、次の世代に「らしさ」を押し付けない意識が見られる。

自分の子供に対して、なるべく「男だから」「女だから」などと言わないようにしている(子供を持つ人ベース)



全体=409s

本調査：以下のジェンダーに関する文章について、あなたの経験や気持ちに最もあてはまるものをお選びください。/自分の子供に対して、なるべく「男だから」「女だから」などと言わないようにしている (SA) / 「あてはまる」「ややあてはまる」

※本稿は小数第1位まで(小数第2位を四捨五入)を表示しているため、合計値は見た目の数値と異なる場合があります。

【博報堂キャリアジョ研プラスについて】

「女性の幸せを起点に、すべての人が生きやすい“ニュートラルな社会”づくり」をビジョンに掲げて活動する、博報堂および博報堂D Yメディアパートナーズのスタッフを中心とした社内プロジェクト。2013年より、働く女性（キャリアジョ）に関するインサイト発掘、調査や情報発信を行う。現在は、女性たちを取り巻く社会課題にも専門領域を拡大し、多様な立場にある生活者の声に向き合い、情報発信を行うほか、共創パートナーとともにマーケティング支援や事業・サービスの構想支援、教育機関での講演・企業内研修などに取り組む。ひとりひとりが性別に関わらず、自分の選択肢や自己実現を叶えられる未来、ひいては“キャリアジョという言葉を使わなくなる未来”の実現を目指して、活動を行っていきます。

「博報堂キャリアジョ研プラス」に関するリリースはこちら

<https://www.hakuhodo.co.jp/news/info/106180/>